

佐賀大学校友会では、平成 27 年 10 月から宮崎耕治学長のもとで、校友会役員をはじめとする会員や佐賀大学同窓会と共に校友会組織の拡大と多くの学生への支援ができる体制づくりに取り組んでおります。

今回、第 7 回佐賀大学ホームカミングデーを開催するにあたり、参加者の皆様に学生の諸活動への支援及び校友間交流への支援の状況を報告し、多くの方に佐賀大学校友会の設置の趣旨や活動内容に御理解をいただきたく思っております。

本日は、平成 29 年度に校友会からの奨励金により海外で国際的な研究活動を行った代表学生及び海外の協定校へ留学した代表学生の報告会と、これまでの校友会の活動状況を報告いたします。

校友会設立から平成 27 年度までの支援状況は、佐賀大学校友会会報第 1 号や支援事業報告書（平成 29 年 11 月 25 日）にて会員の皆様へご報告させていただくとともに、校友の皆様には、ホームページにて最新の情報を提供していますのでぜひ一度ご覧ください。

佐賀大学校友会ホームページ：URL <https://koyukai.admin.saga-u.ac.jp/>



概要

- 校友会会長挨拶
- 校友会事業の概要
- 校友会事業内容
- 校友会組織
- 校友会会則
- English

情報

- 校友会会報
- 支援等状況報告
- お知らせ
- イベント情報

校友会会員

- Web登録
- 会費（納入方法）

その他

- 佐賀大学同窓会
- お問い合わせ
- このサイトについて

佐賀大学は、これまで培った文、教、経、医、理、工、農等の諸分野にわたる教育研究を礎に、豊かな自然あふれる風土や諸国との交流を通して育んできた独自の文化や伝統を背景に、「魅力ある大学」「創造と継承」「教育先導大学」「研究の推進」「社会貢献」「国際貢献」「検証と改善」の7項目からなる大学憲章を宣言し活動しております。

昨今の国立大学法人を取り巻く環境は、法人化以降、更なる効率的な大学経営が求められるという状況の中にあつて、本学においては新しい教育課程の編成や学内施設整備、さらに医学部附属病院の再整備や芸術地域デザイン学部設置などの事業を着実に進めてきました。もちろん、今日の佐賀大学は、多くの関係者の皆様の抱みないご努力や真摯な取り組みの上にあり、こうした先人が辿ってこられた道程を忘れることなく、本学の理念でもあります「地域とともに未来へ向けて発展し続ける大学を目指して」とともに、「芸術的感性豊かな多様性に富む、グローバルな視野を持つ地（知）の拠点」を目指し、構成員一同、邁進してまいります。

また、大学改革実行プランの公表を契機として、課題解決に向けた取り組みや本学の特色・強みをさらなる発展へと導く機能強化、地域との連携を推進するCOC (Center Of Community) 機能強化の取り組みや将来構想などを大学改革の戦略としてまとめ、また、佐賀の地域に必要とされる「佐賀の大学」を目指し、併せて学生・卒業生の方に愛される「面倒臭い良い大学」を実現するための指針として「佐賀大学改革プラン」を策定し、第3期中期目標・中期計画に向けた指針としながら、随時実行に移してまいります。

しかしながら、少子高齢化社会が本格的に進んでいく中で、本学のような地方に位置する一国立大学が生き残っていくためには、本学の教職員の努力は勿論のこと、関係者の皆様方のご理解とご支援が不可欠です。また、「大学とは生涯にわたって自ら学ぶ姿勢」を身に付ける場ですが、学生が学生生活において様々な活動に参加していくためには、大学の経営資源のみでは十分に賅えない状況にあります。

そのような中で、校友会設立後、皆様からの会費により、国際交流支援、海外派遣支援、課外活動等の支援として、これまで1千万円を超える額を学生に給付し、また校友間交流支援事業として、ホームカミングデー等も開催することができました。この場を借りて御礼申し上げます。

このような、学生がより良いキャンパスライフを過ごすことができるよう支え、支援していくことが佐賀大学校友会の使命であると考えています。

今後、佐賀大学校友会は、卒業生、同窓生、教職員、在学生の保護者等に限らず佐賀大学に関係のある方々や企業・団体の皆様を含めた校友の組織づくりに取り組んでいきます。

会員の皆様におかれましては、引き続き佐賀大学校友会事業にご理解をいただくとともに、格別のご支援を賜りますことをお願い申し上げます。

平成 27 年 10 月
国立大学法人佐賀大学
学長 宮崎 耕 治

佐賀大学校友会ホームページ

概要

校友会会長挨拶
校友会事業の概要
校友会事業の内容
校友会組織
校友会会則
English

情報

校友会会報
支援状況報告
お知らせ
イベント

校友会会員

Web登録
会費（納入方法）

その他

佐賀大学同窓会
お問い合わせ
このサイトについて

皆様のご期待に沿えるような活動内容や情報発信ができるよう日々取り組んでいきたいと思っております。皆様からの校友会に対するご意見等お待ちしております。

佐賀大学校友会 事務局

～～ 奨励金受給者による報告 ～～

国際交流奨励金受給者（平成29年度受給）

ミャンマー研修を振り返って

農学研究科生物資源科学科 山本 ちひろ

研修先： ミャンマー

派遣期間：平成28年12月末～平成29年1月上旬

- 奨学金受給の使途・効果
支援していただいた奨学金は、渡航費にあてさせていただきました。
ミャンマーでは、研究の拠点にしたマンダレー大学周辺だけでなく、試料の採取のためにミャンマー北部に位置するミッチーナーにも滞在し、広範囲に渡って活動することができました。
- 短期的な視点で一言
ミャンマー北部にカンキツの起源地域が含まれています。さらに、ミャンマーを始めとする東アジアでは、その使用も盛んです。商業的に出回っている栽培品種だけでなく、野生品種のサンプルも採取することができました。また、カンキツの形状だけでなく、独特な使用方法もあり、カンキツが栽培において特に有用な植物の1つと再認識し、さらなる研究意欲がわきました。
- 長期的な視点で一言
国外のあまり機材が発展しているわけではない土地で研究することで、佐賀大学が如何に勉強や研究しやすい環境が整っているかを、実感いたしました。また、海外で他文化の刺激を受け、海外とのつながりが、より研究環境をよくすることに役立つと感じました。佐賀大学のためにも、今後の研究のためにも、この経験を新たな交流のきっかけにしていきたいと思っております。
- 校友会の皆様へ
校友会の皆様の援助のおかげで、金銭面の心配を取り除くことができ、この貴重な経験をすることができました。短期の調査活動であるからこそ、長期間の留学などとは異なり、尻込みしてしまう面もありましたが、短期での補助もしてくださり、誠に感謝しております。ありがとうございました。



海外派遣奨励金受給者（平成29年度受給）

フィンランドの教育から学んだもの

文化教育学部国際文化課程 長尾 冴子

留学先：フィンランド ユバスキュラ大学

派遣期間：平成29年8月～平成30年5月

- 奨学金受給の使途・効果
支援いただきました奨学金については、留学前の準備費として使用させていただきました。特に航空券と海外保険代はともに10万円を超える大金を支払わなければならなかったため、こちらを援助して頂くことで、個人で用意したお金を現地での生活費に回すことができました。
- 短期的な視点で一言
私は、教育の中でも特に英語教育を見てきました。日本の英語教育は4技能全てを重視しがちですが、フィンランドで大切なのはまず聞くことと話すことです。そして、フィンランドが取り入れているこの2技能の学習は日本でも取り入れられるのではないかと感じ、確かな手こたえを感じています。
- 長期的な視点で一言
私はこの留学で、教育というものを金銭の面で変えていきたいと思うようになりました。二国の教育にかかるお金の差は一目瞭然です。来春から地域創生の会社に勤め、地域の経済循環に貢献します。そして少しでも教育にお金をかけられる仕組みづくりをし、子供たちに明るい未来を与えたいです。
- 校友会の皆様へ
私にとって留学は高校時代からの夢でした。留学前に経済的な面でもとても不安でしたが、何不自由なく留学に打ち込むことができたのは校友会の皆様のお力添えなくしてあり得ませんでした。一年間勉強に集中し、多くの友人に支えられたかけがえのない時間を与えてくださった皆様に心から感謝するとともに、今後の自分の目標に向かって精進していきたいと思っております。



～～ 平成29年度の支援状況（学生支援） ～～

国際交流奨励金（2件 10万円）・・・学生の国際的な活動のための支援

大学院農学研究科修士課程生物資源科学専攻 山本 ちひろ
派遣期間等：海外における研究会、共同研究（平成29年12月23日～平成30年1月8日）
派遣先：ミャンマー

大学院工学系研究科博士前期課程知能情報システム学専攻 田中 雄也
派遣期間等：その他海外における活動（平成30年4月15日～平成30年4月18日）
派遣先：アメリカ

海外派遣奨励金（4件 105万円）・・・学生の海外留学のための支援

大学院教育学研究科課程教科教育専攻 河野 翔太
留学先等：フィンランド ユバスキュラ大学
留学期間：平成29年8月～平成29年12月

文化教育学部国際文化課程 長尾 冴子
留学先等：フィンランド ユバスキュラ大学
留学期間：平成29年8月～平成30年5月

農学部応用生物科学科 川久保 修佑
留学先等：アメリカ スリッパリーロック大学
留学期間：平成29年8月～平成30年5月

農学部生物環境科学科 浅田 祐太
留学先等：リトアニア ヴィタウタスマグナス大学
留学期間：平成30年1月～平成30年12月

校友間交流事業（海外版ホームカミングデー）

○佐賀大学ホームカミングデー in 北京

開催日：平成29年12月9日（土）

会場：中国・北京市内ホテル

概要：本学からは、寺本理事・副学長をはじめ、中国の大学との協定締結時に学長を務めた佐古名誉教授、初代留学生センター長の田端名誉教授等が参加。来賓は、協定校、在中国日本国大使館、科学技術振興機構北京代表処、北京佐賀県人会、佐賀県地域交流部国際課等。参加者は佐賀大学の元留学生35名を含む計67名。中国での開催は、2012年9月の杭州開催に続いて2回目、北京での開催は初。佐賀大学寺本理事の挨拶の中で、現在本学では、留学生全体の約4割にあたる84名の中国人留学生在籍しており、国別で最多であること、中国は今後も本学にとって国際交流の最も重要な地域であることが述べられた。式中、佐賀大学で学んだ中国人留学生会の発足式が行われ、初代会長の北京工業大学・李徳勝教授、世話役の天津科技大学・宋麗紅准教授に佐賀大学友好特使を委嘱。北京佐賀県人会の渡辺氏からは、所属する久光製薬の中国における現地法人の活動について紹介。最後に、佐古元学長からの挨拶の中で中国語の歌が披露され、別れを惜しみつつ再会を約し閉会。



校友間交流事業（ホームカミングデー）

○第6回佐賀大学ホームカミングデー

開催日：平成29年11月25日（土）

会場：佐賀大学教養教育2号館、美術館

概要：卒業後50年、40年、30年、20年の近県在住のOB、OGを招待。
卒業生の方28名を含む57名が参加。

企画：大学の研究紹介

全学教育機構 中尾 友香梨 准教授

「佐賀城下にあった幻の大名庭園」

学生発表

芸術地域デザイン学部学生作成作品紹介

「VR(バーチャルリアリティ)で体験する仮想空間築城プロジェクト」

佐賀大学校友会からの奨励金受給者による報告会

美術館での作品鑑賞

「佐賀大学特設美術科36期生 卒業50周年展」

「久富邦夫展」

美術館スタジオにて懇談会



佐賀大学校友会では、会員になっただけの方を募集しています！！

【問い合わせ先】

佐賀大学校友会事務局

〒840-8502 佐賀市本庄町1(国立大学法人佐賀大学1階)

電話 0952-28-8154

(月曜日から金曜日 8:30~17:15 [祝日は除く])

会費

- 正会員(個人) 20,000円(終身会員)
2,000円(年会費) ※2万円に達した場合は、終身会員になります。
- 賛助会員(団体に限りです)
1口50,000円

払込方法

- 現金または郵便局振込にてお願いします。
 - ・現金の場合は、佐賀大学校友会事務局にて受領いたします。
 - ・郵便局の場合は 振替口座/01760-049425
振替名義/佐賀大学校友会
(振込料金は、校友会で負担いたします。)